

〔萬葉集略解十一上〕續紀、養老五年、分備後國安那郡置深津郡略。此みちのしりは備後也、下に其地名をいふ時は、路の後道の口とのみいへり、

〔毛利元就記〕石見國と備後半國內郡の分は、雲州の尼子晴久に従ふ略。元就の妾に御子四人あり中。一人は女子也略。備後の國外郡に上原元祐と云人あり、甲山の城主也、右の御むすめを元祐へ約して、聳にし給へば、それより備後外郡の諸士、悉く元就へ相從、備後一國御手に入る、

〔陰德太平記十八〕備後國志川瀧山落城之事。備後國外郡ノ志川瀧山ノ城可被攻トテ、同文天二十年七月、毛利右馬頭元就略。三千八百餘騎ニテ彼表へ打出給、

〔地勢提要乾〕各國經緯度附里程。備後福山深津、極高三十四度三十分半、經度西二度二十一分半、從東都同上、東海道西國海道二百〇四里一町三間半、

〔日本經緯度實測〕北極出地。備後 福山 三四度三〇分三〇秒。三原 三四度二四分三〇秒。忠海湊 三四度二〇分三〇秒略。東西里差

山城 京 〇度〇〇分〇〇秒略。備後 福山 西二度二一分三一秒。〔藝藩通志備後〕疆域形勢

疆域

位置

備後國は山陽道に屬して、八ヶ國の一たり、四隣東は備中、西は安藝、北は出雲、伯耆、南は海を隔て伊豫讚岐國なり、東西廣十五里餘、東は奴可郡三坂村より、西は三次郡福田村に至、南北袤十七里、南は御調郡木原村より、北は三次櫃郡田村に至、形勢氣候生産等は、粗安藝國に同じ、